

ご利用案内

開館時間 10:00～17:00（入館は16:30まで）
休 館 日 水曜日（水曜日が祝日の場合は翌日が休館。5/3（水・祝）は開館、8（月）は休館）
年末年始（12/28～1/4）

観 覧 料	本館展示	特別展「ラテンアメリカの民衆芸術」※ 特別展「交感する神と人―ヒンドゥー神像の世界」※
一 般	580（490）円	880（600）円
大学生	250（200）円	450（250）円
高校生以下	無料	無料

※本館展示もご覧になれます。

- （ ）は、20名以上の団体料金、大学等の授業でご利用の方、3ヵ月以内のリピーター、満65歳以上の方の割引料金（要証明書）。
- 特別展「ラテンアメリカの民衆芸術」および「交感する神と人」は20名以上の学校団体（大学）については、本館展示割引観覧料相当額（大学生200円）でご覧になれます。
- 障がい者手帳をお持ちの方は付添者1名とともに、無料で観覧できます。
- 大学生・一般の方は万博記念公園各ゲートで、当館の観覧券をお買い求めください。同園内を無料で通行できます。
- 高校生以下の方、国立民族学博物館友の会会員の方は万博記念公園各ゲート有人窓口で、みんぱくへ行くことをお申し出いただき、通行証をお受け取りください。
- 万博記念公園をご利用になる場合は、同園入園料が必要です。

ご来館のみならず
新型コロナウイルス感染症の状況によっては、会期・イベント等を変更・中止する場合があります。事前にホームページでご確認ください。



交通のご案内 ◎みんぱくは、大阪・万博記念公園内にあります。

○大阪モノレール…「万博記念公園駅」「公園東口駅」下車徒歩約15分

○バス…阪急茨木市駅・JR 茨木駅から「日本庭園前」下車徒歩約13分

○乗用車…万博記念公園「日本庭園前駐車場」(有料) から徒歩約5分

○タクシー…万博記念公園「日本庭園前駐車場」まで乗り入れてできます。

お問い合わせ先 TEL. 06-6876-2151 FAX.06-6875-0401

〒565-8511 大阪府吹田市千里万博公園10番1号

https://www.minpaku.ac.jp



この印刷物は、環境に配慮した用紙とインキを使用しています。

本館展示

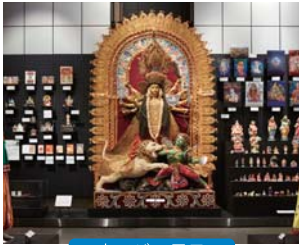
国立民族学博物館（みんぱく）は、世界の人びとの暮らしや文化にふれることができる世界最大級の民族学博物館です。世界各地の衣食住に関わる生活用具や、儀礼や信仰に用いる道具などを展示しています。



オセアニア展示



アフリカ展示



南アジア展示



日本の文化展示

館内のご案内

探究ひろば 「リサーチデスク」「研究の現場から」「世界をさわる」の3つのコーナーをととして、みんぱくの研究や展示をより詳しく知ることができます。

ビデオテーク・みんぱくシアター 世界の人びとの儀礼や芸能、生活の様子などを記録した番組を、大型スクリーンや少人数用のブースで視聴できます。

みんぱく電子ガイド 展示物をみながら、映像と音声による解説が視聴できる、携帯型の展示解説装置を無料で貸し出しています。

みんぱく図書室（本館3階） 文化人類学・民族学関係の文献図書資料を所蔵しています。どなたでもご利用いただけます。
休室日：日曜日、祝日（土曜日を除く）、及びみんぱく休館日

ミュージアム・ショップ 世界各地の民芸品や文化人類学・民族学に関する書籍などを多彩に取り揃えています。TEL.06-6876-3112



ミュージアム・ショップ

森の洋食 グリルみんぱく 観覧の余韻に浸りながらゆっくりと本格的な洋食が楽しめます。営業時間 11:00～16:30（ラストオーダー 16:00）
TEL.06-6310-0810



森の洋食 グリルみんぱく

国立民族学博物館友の会 家庭学術雑誌『季刊民族学』、友の会講演会、各種セミナーをととして多様な文化に関する情報をお届けします。
お問い合わせ先：公益財団法人千里文化財団 TEL.06-6877-8893

■みんぱくゼミナール 研究者が最新の研究成果をわかりやすく講演します
毎月第3土曜日13:30～15:00（開場13:00）
●場所：みんぱくインテリジェントホール（講堂）
●無料 ●事前申込制（先着順） ※講師・演題・開催場所は都合により変更する場合があります

第532回 4・15土 特別展関連

記憶と抵抗のメディアとしての民衆芸術

鈴木 紀（本館 教授） 酒井朋子（京都大学 准教授）

細谷広美（成蹊大学 教授）※オンライン登壇

山越英嗣（都留文科大学 准教授）

ラテンアメリカの民衆芸術を市民の批判精神の表現として捉えます。チリ、ペルー、メキシコの作品に焦点をあて、それらがいかに暴力を記憶し、不正義に抵抗する手段になっているかを考えます。



アルビジェラ「反テロリスト法に否を2」（2015年制作、大島博光記念館蔵）

第533回 5・20土

データベースからデジタルミュージアムへ―文化遺産オンラインの

リニューアル公開とタイムマシンナビ

丸川雄三（本館 准教授）

10年ぶりのリニューアルを果たした文化遺産オンラインは、文化財を画像や動画とともに楽しむことができるポータルサイトです。デジタルミュージアムを目指して成長する現在の姿を紹介します。



タイムマシンナビ表示例

Image:TNM Image Archives

第534回 6・17土

日本人による最初期のガラパゴス探検

丹羽典生（本館 教授）

日本人として最初期に探検隊のメンバーとしてガラパゴス諸島に足を踏み入れた人物に朝枝利男がいます。本ゼミナールでは、彼がガラパゴスにて見聞したこととその成果を紹介します。



クロッカー山初登頂の瞬間（1932年）

第535回 7・15土

情報工学研究者のフィールドワーク

宮前知佐子（本館 助教）

情報工学と文化遺産。一見すると結び付かない未来の技術と過去の痕跡ですが、人文科学研究にデジタル技術が応用されるようになりました。研究室を飛び出し現場へ向かった情報工学者の活動を紹介します。



遺跡の上を走査する機材（2016年）

第536回 8・19土

死してなお「生きる」者 ―現代イランにおける戦後と殉教者

黒田賢治（本館 助教）

中東の国イランでは、戦没者は死してなお「生きる」殉教者として扱われ、時に彼らについて、その生前・死後に起こした奇跡とともに語られます。彼らの奇跡譚からイランの戦後社会を考えます。



共同墓地に埋葬された殉教者たち（2019年）

第537回 9・16土

ベトナムの黒タイの神話

檜永真佐夫（本館 教授）

ベトナム西北部に広く居住するタイ系民族、黒タイの神話をご紹介します。たくさんの民族が雑居する地域における人びとのくらしについて、歴史を踏まえたお話をします。



黒タイの「カメの甲」型の家（2011年）

みんぱく
カレンダー

2023
4—9
Apr. Sep.

国立民族学博物館
National Museum of Ethnology

■ 特別展 3・9木～5・30火

● 特別展示館

ラテンアメリカの民衆芸術

あふれる色とはじける形、ラテンアメリカの民衆芸術の展覧会です。古代文明の遺物から現代アートまでいろいろな作品を一挙に展示。先コロンブス時代以来の文化混淆の歴史、芸術として洗練されていった過程、そして現代の制作者の批判精神に焦点をあてながら、多様な民衆芸術が存在する理由を考えます。



レタプロ (ペルー)



飾りヒョウタン (ペルー)



仮面 (ブラジル)
この枠内の写真：六田知弘、六田春彦



モラ (パナマ)



土人形 (ブラジル)

■ 特別展 9・14木～12・5火

● 特別展示館

交感する神と人 ―ヒンドゥー神像の世界

さまざまなモノに現れるヒンドゥー教の神がみの姿や五感を通じて神像に働きかける人びとの営みを紹介し、神との交感を核とする信仰の世界に迫ります。

関連イベント	
研究公演	9・23(土・祝) 愛の詩と甘美なる音―ヒンドゥーの神々への賛歌(仮)
ウィークエンド・サロン	10・1(日) 10・8(日) 10・15(日) 10・22(日) 11・5(日) 11・12(日) 11・19(日)
みんぱく映画会	11・3(金・祝) ガングスに還る

その他、ワークショップなども予定しています。



誕生祭用に着飾らせた
クリシュナ神像



ブランコで遊ぶ
幼いクリシュナ神像



ガンゴール女神とその夫のイサ神(シヴァ神)

2023

4	日	月	火	水	木	金	土
							1
2	3	4	5	6	7	8	
9	10	11	12	13	14	15	
16	17	18	19	20	21	22	
23	24	25	26	27	28	29	
30							

5	日	月	火	水	木	金	土
							6
7	8	9	10	11	12	13	
14	15	16	17	18	19	20	
21	22	23	24	25	26	27	
28	29	30	31				

6	日	月	火	水	木	金	土
					1	2	3
4	5	6	7	8	9	10	
11	12	13	14	15	16	17	
18	19	20	21	22	23	24	
25	26	27	28	29	30		

7	日	月	火	水	木	金	土
							1
2	3	4	5	6	7	8	
9	10	11	12	13	14	15	
16	17	18	19	20	21	22	
23	24	25	26	27	28	29	
30	31						

— 特別展

— 企画展

— コレクション展示

□ 友の会講演会

■ みんぱくウィークエンド・サロン

■ 休館日

■ 企画展 9・7木～12・12火〈予定〉

● 本館企画展示場

北アメリカ北西海岸先住民のアート〈仮〉

北アメリカ北西海岸地域の先住民は、巨大なトーテムポールやカヌーを制作することで有名です。伝統文化の創造的継承のために1960年代から神話や口頭伝承、事件、体験などをモチーフとして版画制作を始めました。本展示では、北西海岸先住民のユニークな作品をとおして彼ら/彼女らの共生の世界観や体験してきた社会変化を紹介します。



クリスチャン・ホワイトのトーテムポールの建立



家屋の壁面 (ジム・ハート宅)



トライバル・ジャーニーに参加したカヌー



ハイダの紋章の入ったマントを羽織る女性たち

関連イベント

ウィークエンド・サロン 9・10(日) 10・29(日) 11・26(日) 12・3(日)

その他、ワークショップなども予定しています。

■ コレクション展示 7・6木～8・8火〈予定〉 ● 本館企画展示場の一部

ハンターのみた地球〈仮〉

私たち人類は古代より狩猟によって地球の隅々まで拡散し、獲物を分かち合うなど協力して生き抜いてきました。ここでは、世界各地に暮らす7名のハンターの狩猟具、狩猟場面、獲物の分配方法などを紹介し、人類の狩猟をとおして地球の未来を考えます。

関連イベント

ウィークエンド・サロン 7・23(日)



狩猟用水筒
材質：キリンの胃袋

■ 研究公演

● 場所：みんぱくインテリジェントホール(講堂)

● 要事前申込(先着順) ● 要展示観覧券

ペルーアンデスの民衆の歌

4・22± 14:00～15:40(開場13:30)

ペルー出身のイルマ・オスノがアンデスの民衆の歌を歌います。共演はギタリストの笹久保伸。日本では聴く機会が少ないアヤクーチョ地方の音楽を届けます。



イルマ・オスノ



笹久保伸

愛の詩と甘美なる音 ―ヒンドゥーの神々への賛歌〈仮〉

9・23±・祝 13:30～15:30(開場13:00)

音楽はヒンドゥー教徒の祈りの場に欠かせないものです。本公演では、バジャンという宗教歌の実演をとおしてヒンドゥーの信仰の姿を紹介します。



(出演者) 林怜玉、ミーター・バンディット、ナカガワウエジ(写真左から)

■ みんぱく映画会

● 場所：みんぱくインテリジェントホール(講堂)

● 要事前申込(先着順) ● 要展示観覧券

みんぱくワールドシネマ

「ラ・ヨローナ 彷徨う女」

5・27± 13:30～15:55(開場13:00)

グアテマラに今でも深い爪痕を残す内戦と、そのさなかに起きた先住民虐殺。戦争責任をめぐる、恐るべき復讐劇が幕を開けます。



© COPYRIGHT LA CASA DE PRODUCCIÓN - FÉLIX FILMS DU VOLCAN 2019

HARAJUKU 原宿

7・29± 14:00～16:30(開場13:30)

日本に憧れるノルウェーの少女を描いた映画。クリスマス直前、少女を取り巻く環境が一変します。彼女は幸せな社会にたどり着けるのでしょうか。



東京の雑踏にたたずむ主人公

■ みんぱくウィークエンド・サロン ― 研究者と話そう

● 日曜日開催 14:30～(30～60分) ※都合により予定を変更することがあります。

● 場所：本館展示場ナビひろば他

● 要展示観覧券 ● 申込不要

みんぱくの研究者が「みんぱくの展示資料」「調査している地域(国)の最新情報」「現在取り組んでいる研究」について分かりやすくお話しします。



展示や催しの最新情報は、ホームページをご覧ください。

表紙：玩具(グアテマラ) 写真：六田知弘、六田春彦